



# こうきた 12月号

杉並区立高円寺北子供園

## 特別支援教育について

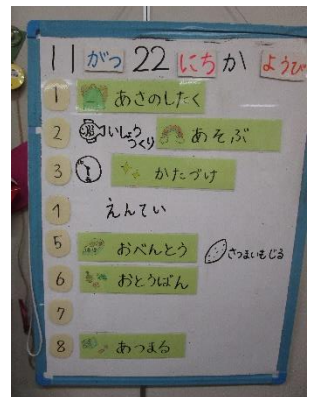
園長 須田なぎさ

今回は、特別支援教育について、お話ししたいと思います。特別支援教育とは、「障害のある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」と、文部科学省は示しています。

子供園では、特別支援に関する外部の専門家による研修を年に数回行っていきます。支援が必要なお子さんに関するアドバイスや、適切な手立てや環境について職員が学ぶ機会になっています。そのアドバイスをもとに、声掛けを工夫したり、視覚的教材を作成したりして、一人ひとりが安心して過ごしやすい環境を作るようにしています。

声掛けの具体例としては、学級全体の活動で鬼ごっこをしているとき、担任は、学級の一人ひとりの動きをよく見てルールが理解できているか、分かって動いているか、ゲームを楽しんでいるか、など様々な視点で見守っています。ルールの理解が曖昧な動きをする幼児には、ルールが分かるように一緒に動き、動きを解説していきます。分かっているが動きだせずにいる幼児には、動き出すタイミングを見計らって声を掛けています。

視覚的教材の例としては、両学年とも、担任が毎日のスケジュールを表示しています。幼児は登園すると、表示されているスケジュールを確認し、見通しをもって生活をしています。この表示は、気持ちの切り替えの難しいお子さんや、見通しをもてないと不安なお子さんなどに特に有効ですが、学級の誰が見ても分かりやすく、自分で考えて行動できるものになっています。また、着替えや身支度の手順を、言葉掛けだけでなく、視覚的に分かるように絵や写真などを用いて示すこともあります。



このような手立てや環境の工夫は、支援が必要とされるお子さん（障害がある、あるいは診断名のついたお子さん）に対してだけするものではありません。子供園に通う年齢の子どもたちは、発達に個人差があり、得意不得意もあり、特性もあります。

そのため保育者は、一人ひとりをしっかり把握し、持っている力を十分に発揮できるよう、個別に対応し援助しています。幼稚園教育要領には、幼稚園教育の基本に関連して重視する事項として、「一人ひとりの特性に応じた指導が行われるようにすること」とあり、この考え方は、教育の基本です。すべての子どもたちの良さを生かしながら、自分でできることを増やし、子どもたち同士が助け合う学級を作るためにも、誰でも分かりやすく取組みやすい保育を進めていくことが大切だと考えます。

「みんな違って みんないい」「世界にひとつだけの花」などと、よく耳にしますが、つい他のお子さんと比べて、不安になる保護者の方もいらっしゃると思います。これからも子供園では、専門機関や専門家と連携し、よりよい支援ができるように研修を重ね学び続け、分かったことや子育てのヒントを保護者の皆様と共有しています。子供園とご家庭と同じ方向で、お子さんの成長を支えていけたらと思います。



\*月一回行っている子育て支援講座では、子育てのヒントが満載です。参加できないけれど、どんなことをしているのか気になっている、なかなか都合がつかないという方、資料をお渡しできるので、園長にお声掛けください。

## 《12月の保育》

### ★4歳児 たんぽぽ組

絵本が大好きなたんぽぽ組では、登場人物が親しみやすく、動作や言葉の繰り返しが楽しめるお話を読んでいます。友達と一緒に、お話に出てくる登場人物やなりたい動物になりきってごっこ遊びをしたり、絵本のストーリーに沿った簡単なやりとりをしたりしながら楽しんでいます。子ども会に向けて、これまでの遊びや生活の中で子どもたちが楽しんできたことを、のびのびと表現できるようにしていきます。

また、寒くなってきましたが、鬼遊びや大縄など、戸外や体育館で体を動かすことを楽しめるようにしていきます。簡単なルールのある遊びを繰り返し、学級の友達と一緒に体を動かすことが楽しいと感じられるようにしていきます。

毎日使った学級のおもちゃや自分のロッカーなど、保育室内をみんなで整頓したり掃除したりしていきます。冬休みの過ごし方や年末年始の伝統的な行事について話をし、気持ちよく新しい年を迎えられるようにします。

### ★5歳児 にじ組

子ども会に向けて、劇に必要な物を考えて準備したり、同じ役の友達と一緒にセリフや動きを考えたりして表現することを楽しんでいます。一人ひとりが自分なりの表現を楽しんだり、友達のよさに気付いたりしながら共通の目的に向かってみんなで力を合わせ、一つの劇を作り上げる満足感を味わえるようにしていきます。

子ども会後は、リース作りやコマ回し、縄跳びなど個々の課題に向かう遊びを楽しみます。自分なりのこだわりを追求してじっくり取り組んだり、めあてに向かって繰り返し挑戦したりできるように援助します。

また、戸外や体育館では、ドッジボールや鬼ごっこなど体を動かす遊びも十分に楽しみます。友達と一緒に楽しむ中で、必要なルールに気付いて自分たちでルール作りをしながら遊びを進めていけるようにしていきます。

## 弁当温めのお知らせ

12月8日(木)から3月弁当終了まで、温飯器で弁当を温めます。以下の点について各ご家庭で十分ご配慮いただき、準備のご協力をお願いいたします。

### <温めるときの準備について>

○温飯器の中は、80℃以上になります。弁当箱は、温めても変形しない耐熱性または電子レンジ可のものにしてください。

※アルマイト製の弁当箱は熱伝導がよく、溶ける心配がないので最適です。

※耐熱性ではないプラスチック容器は、入れられません。

※弁当箱のふたの耐熱温度も確認してください。

※パッキン付きのふたは、温めると開かなくなることもあり、お子さんが自分で扱いにくくなるのでお勧めできません。

○感染症対策として温める弁当箱のみ耐熱性のジッパー付きビニール袋(記名)に入れてください。弁当箱は、登園後、弁当袋から出して、耐熱性のジッパー付きビニール袋に入った状態で温飯器に入れます。

※弁当箱を出し入れする際に、落としてもふたが開かないよう、必ず幅の広いゴムをかけてください。

※ゴムには名前を書き、その名前が見えるようにゴムをかけてください。

### <弁当の中身について>

○衛生面に気を付けてください。

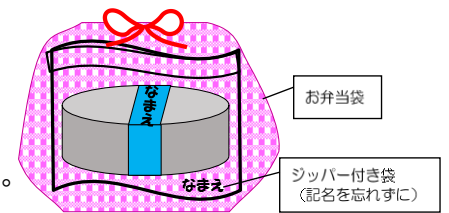
※弁当を作るとき、手や弁当箱を清潔にしましょう。

○朝、加熱したものを詰めてください。

※前日調理したものは冷蔵庫で保管し、朝、必ず再加熱してください。

※温飯器は、あくまでも保温が目的です。加熱調理はできません。

○温める必要がないおかずや生野菜・果物などは、別の容器に入れて持たせてください。



★温める必要がないときは、朝必ずお子さんに弁当を温めないことを伝えてください。

★弁当の保温は強制ではありません。継続して温めを希望しない方は、担任にお申し出ください。